

2021年6月1日
株式会社アドヴィックス
国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学

アドヴィックスと名古屋大学、 新世代のAI実用化のため産学連携し、次世代ブレーキ開発を加速

株式会社アドヴィックス（本社：愛知県刈谷市、社長：大竹 哲也、以下アドヴィックス）と国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学（総長：松尾 清一、以下名古屋大学）は、新世代のAI実用化に向けた共同研究に新たに取り組むなど、産学連携を強化いたします。

アドヴィックスは、世界トップレベルのブレーキシステムサプライヤーとして、先進的で高品質な製品をグローバルに供給しています。予防安全や先進運転支援システム（ADAS）、回生協調ブレーキなど、自動車の安全・環境性能を向上させる新たな技術開発に挑戦しています。

名古屋大学は、2017年に大学院情報学研究科に附属価値創造研究センターを設置し、AI分野等の情報学による新たな価値の創造に向け、基礎研究から社会実装、起業、人材育成等の多様な活動を推進しています。

アドヴィックスと名古屋大学は、2019年から産学協同研究講座「アドヴィックスブレーキシステム計算科学講座」を名古屋大学大学院工学研究科で運営してきました。同講座を2021年度から大学院情報学研究科に移設し、附属価値創造研究センターの武田 浩一センター長と「説明可能なAI（Explainable AI（XAI）」の実用化に向けて共同研究いたします。説明可能なAIとは、今までブラックボックスであったAIの判定根拠を人に理解しやすく提示し、より信頼できる新世代のAIを実現するための技術で、今回の共同研究では、AIのブレーキ設計・開発への応用性・発展性をさらに高める検討を行います。

さらに両者は、AI分野に加えてより幅広い領域で、新たな共同研究テーマを探索していくことにも合意しました。今後、研究開発の初期段階であるフィージビリティスタディ研究から緊密に連携し、迅速に新たな共同研究につなげていく考えです。

現在、CASE※領域をはじめ、自動車に関わる技術は複雑化、高度化しています。アドヴィックスと名古屋大学は、両者の幅広い強みを融合させながら、こうした新たなニーズに対応した次世代ブレーキの研究開発を加速させてまいります。

※C：コネクティッド、A：自動運転、S：シェアード／サービス、E：電動化

以上

<お問い合わせ>

株式会社アドヴィックス 経営企画部 TEL：0566-56-5900

国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部

TEL：052-788-6150